

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571900309
法人名	医療法人 朋詠会
事業所名	グループホーム コスモス苑
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣字古川1116番地 (電話)0985-30-7855
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 10 月 28 日

## 【情報提供票より】(平成21年 9月 30日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 17 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 12.2 人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

## (4)利用者の概要( 9月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	獅子目整形外科病院・綾外科病院・綾立元診療所・田口歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、町の中心地に近く田畑や川と自然に恵まれ、居室からの見晴らしも良い閑静な地にある。小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、町の花火大会の日は、庭で花火を見ながら利用者・家族と職員が焼き肉を食べ和やかな一時を過ごしている。家族会はホームの良き理解者であり協力者でもある。ボランティア奉仕で草取りや窓ガラスを拭いたり、利用者の喜びを模索し今年は門松を作られた。職員は理念を基に、さらに掘り下げた自分たちの理念をユニットごとに作り、目標に向かって実践している。また職員は地域の住民で、地域に密着したホームを目指し努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	小規模多機能型居宅介護事業所が開設され、通所で利用する人や、利用者家族や知人がホームを訪れている。災害対策では、役場や地区の消防団との連携が非常にうまく機能し、災害訓練にも協力してもらっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を実施する意義を理解し職員全員で項目一つひとつ取り上げて意見を出し合い、気づきと反省もあり、改善に向けて取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族会代表、民生委員、公民館館長、地区の消防団団長、役場福祉担当等の出席のもと2か月毎に開催され、利用者の状況や事業報告等と意見交換が行われ、利用者へのより良いサービス、質の向上を願う提案を検討し取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年3~4回開催し、家族の意見や不満、苦情を運営推進会議で報告している。また、家族会はホームの草取りや窓拭きをしたり、お正月の門松を作るなどのボランティア奉仕をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアや小学生の体験学習の受け入れ、地元農産物販売所の利用など地域とのつながりを深めている。町の文化祭に利用者の作品を出品し、会場に見に行くことも利用者の楽しみとなっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えた事業所独自の理念を作り上げ、毎朝唱和している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアを振り返り、改めて理念について検討している。ユニットごとに、自分達の言葉で判りやすく具体的に掘り下げて表現する取り組みを通して、全職員で共有しながら、目指すケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアや小学生の体験学習の受け入れ、地元農産品販売所の利用など地域とのつながりを深めている。また工事で中断している共同農園で保育園児と農作物を作る楽しみを再開出来るように準備している。町の文化祭に利用者の作品を出品し、会場に見に行くことも利用者の楽しみとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義を理解し、職員全員で項目ごとに取り上げて意見を出し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、民生委員、公民館館長、地区の消防団団長、役場福祉担当等の出席のもと2か月毎に開催している。利用者の状況や事業報告等、意見交換が行われ、利用者へのより良いサービス、質の向上を願う提案が検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町に唯一のホームであり、運営上の課題や情報など気軽に相談できている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の何気ない日常生活の様子を毎日書きとめて、家族に毎月報告され、安心を得られている。また、季節ごとにホームの様子を写真入りで「コスモス苑だより」として送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3～4回開催し、家族の意見や不満、苦情を運営推進会議で報告している。また、家族会はホームの草取りや窓ふきをしたり、お正月の門松を作るなどのボランティア奉仕をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	育児休暇や介護休暇が取れるよう配慮されており、離職しなくて職場復帰が出来るようになっている。また、利用者への配慮から異動は行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の資格取得や法人内外の研修には積極的であり、すべての職員に研修の機会を与えており、研修の結果は全職員に報告している。また、月に1回職場内での勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック研修会や他の研修会に参加して、グループワーク等を情報交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用する前に家族と見学に来て、利用者と一緒にお茶や昼食を共にする機会を設けている。小規模を利用する人が利用開始になることもあり、その人に寄り添い、慣れるまでドライブに連れて行ったり徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者より礼儀作法や洗濯物のたたみ方など教えてもらったり、利用者の昔話や笑顔に癒されたり、支えあう関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者や家族から聞いた事を利用者毎に記録しており、ケア記録とあわせ、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎に月1回会議を開催している。受持ち職員は、日頃の様子や日々の記録を振り返り、その人にとって何が必要か気づいた事を報告し、それをもとに、家族・ケアマネ・職員が話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月1回評価し、期間に応じ3か月毎に見直し、状態に変化が生じた場合は、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族やその時々々の要望に応じて通院や外泊、外出の支援をしている。また、隣接の小規模多機能施設との交流も行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ごとに、かかりつけ医があり、定期的に家族同行で受診をしたり往診をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合や終末期に向けた方針について説明し同意を得ているが、状態悪化した場合はその都度、家族や医師などと話し合いを行う方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの理念に「利用者の気持ちや立場を理解し、自尊心を大切に」また、ユニット理念に「利用者の個性と価値観を尊重した思いやりを大切に」とあり、日々実践されている様子が感じられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生け花を楽しみ、公民館の「サンサンクラブ」に出かける人もいる。また、無理強いはしないように配慮しながら、部屋にこもっている人に声をかけ、洗濯物たたみ等をしてもらったり、希望を引き出すように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は時間差で入居者と同じテーブルで食事をしたり、嚥下に問題のある人の見守りや声をかけたり、食べやすく並び替えたり、さりげなくやさしくサポートしている。		職員は、希望により利用者と同じ食事が弁当になっているが、職員が希望しなくても利用者と同じ食事ができるような取り組みも考慮してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、夜間でも入浴の支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花やぬり絵、食器洗いや洗濯物をたたんだり、出来る事してもらっている。時には、玄関前のベンチで話し合ったり、喫煙習慣のある人はタバコを楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と一緒に散歩やドライブに行ったり、ホームの庭は広く戸外に出たり、隣接する施設に出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の自動ドアを開放し外柵にも鍵はかけていない。自由に出入りができるが、外に出るときは職員がそれとなく付いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議に消防団団長がいるので、消防団の協力を得て、年2回は防災訓練を行っている。防火管理者は外部研修を受け、定期的にホームで防火訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による多くの食材を使った献立で、栄養素、カロリーも計算されバランスのとれた食事を、咀嚼力や病状に応じて提供している。水分補給も食事・おやつ時の摂取量を毎日記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が生けてあり、中庭から採光や風を取り入れ、食堂やフロアにはゆっくりできる大きなソファがあちこちに置いてある。利用者は、食後それぞれに、ソファでテレビを見たり、畳敷きの居間に腰掛けて洗濯物たみをしたり、心地よく過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具やテレビ、写真、人形や知人から届けられた花など飾られ、落ち着いて、安心して過ごせるように配慮している。		